

特別史跡金田城跡整備委員会開催



2月10日、国の特別史跡「金田城跡」の保存、整備を考える特別史跡金田城跡整備委員会が開催されました。

この委員会は、大学教授や文化庁、県教育委員会、対馬市文化財保護審議会委員、対馬市教育委員会で構成されています。

今回は、平成16年度2回目の委員会になり、現地視察と会議が行われ、二ノ城戸周辺の石垣部分、新たに見つかった水門と思われる部分、城門全面の階段部分の調査等について、専門家の意見を交えながら、今後の整備方法が審議されました。

今年度は、二ノ城戸の整備復元を基本に、石垣の調査、崩落の危険性がある部分の解体や修復、登山道の整備、標識の設置などが行われています。



二ノ城戸調査の様子

《特別史跡金田城跡》

金田城跡は、昭和57年3月23日に、長崎県で初めて国の特別史跡に指定された朝鮮式山城です。

平成5年度から発掘調査を開始し、これまでに多くの遺構が発見されています。

金田城築城の歴史は今から1300年以上さかのぼり、663年（天智2）8月、

白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗れた日本軍は朝鮮半島から撤退しました。

その結果、唐・新羅の来襲に備え防備を早急に整えることが必要となり、大和朝廷は、防人を東国から集め、対馬・吉岐・筑紫に配置し、665年（天智4）大野城、基肆城、長門城を、667年（天智6）には高安城、屋島城、金田城を築き国土防衛の備えをしました。

地理的に対馬は、国防の最前線に位置するため、金田城の役割（見張り、通信）はたいへん重要なものでした。



一ノ城戸



三ノ城戸

市長の動き

《2月》

- 1～3日 韓国蔚山蔚州郡庁表敬訪問
- 5日 「いい朝NCC」取材、対馬市介護認定審査委員現任研修会
- 8日 行政改革システム本部会議
- 9～10日 県道整備に関する陳情（長崎）
- 12～13日 合併講演（唐津）
- 14日 行政改革推進委員会中間報告
- 16～18日 県離島振興協議会理事会、県離島振興市町村議会議長会（長崎）
- 19日 地域活動所まつり
- 20日 対馬少年の主張大会
- 21～24日 県漁港協会理事会、県国保連合会総会他（長崎）
- （長崎）全国離島振興協議会正副会長会議（東京）
- 離島住民から見た交通バリアフリー化調査委員会（福岡）
- 25日 平成17年第1回対馬市議会定例会
- 26日 介護保険事業計画作成委員会
- 28日 平成17年第1回対馬市議会定例会

対馬少年の主張大会

2月20日、対馬市公会堂で平成16年度第4回対馬少年の主張大会が開催され、市内各町の代表12名が発表を行いました。

最優秀賞を獲得したのは、浅海中学校2年の橋本このみさん。「心の望遠鏡」という発表題で、ボランティアで行った老人ホームで、気の強いおばあちゃんと出会い、強がりばかり言ってる職員を困らせていたおばあちゃんが、ほんとは寂しくて強がりを言っていたことを知り、人を見た目で判断するのをやめて、素直な心で受け止めようと感じたことを発表しました。橋本さんは、今年8月の少年の主張長崎県大会に対馬市代表として参加します。

優秀賞を受賞したのは、「空の青さに命を思う」の題で、修学旅行で知った特攻隊という悲しい出来事。その特攻隊の劇を文化祭で演じ、命の大切さがわかったと発表した久田中学校2年の阿比留幸輝くん。「国際交流」という題で、韓国の中学校との交流

を通じて、言葉は違っても同じ人間同士として交流することが大切だと発表した南陽中学校1年の久壽米木晶子さん2名でした。



久壽米木 晶子 さん

阿比留 幸輝 君

また、「言葉の重さ」の題で、何気なく使う「かわいそう」という言葉は、ほんとは相手を傷つけるのだと発表した雑知中学校1年の齊藤美和さんが、平成17年度「社会を明るくする運動」中学・高校生長崎県弁論大会の対馬代表に選ばれました。その他の結果は次のとおりです。

《入選》

敬称略、順不同



齊藤 美和 さん

- 小川真琴（厳原中2年）
「私たちができること」
- 波田あかね（加志々中2年）
「戦場のピアニスト」
- 早田雄彦（久原中2年）
「私たちと対馬の」
- 中村杏奈（東部中2年）
「笑顔の大切さ」
- 早田奈保美（西部中1年）
「平和とは私たちが」
- 玖須涼香（比田勝中1年）
「言葉のやさしさ、つくるもの」
- 三宅綾（佐須奈中2年）
「一致団結」
- 里幸美（豊玉中2年）
「命の重さと平和」

橋本さんへインタビュー

最優秀賞の感想は？

まさか自分が選ばれると思わなかったのでびっくりしました。でも選ばれてとても嬉しかったです。

県大会への抱負は？

もっと強弱の付け方など話し方を勉強して、県大会でも一番になりたいです。

橋本さん、県大会も頑張ってください。



橋本 このみ さん



地域活動所まつり

「精神障害者に対する心の
バリアフリーを目指して」

2月19日、対馬ビジターセンターで、精神疾患を正しく理解し、精神障害者との心のバリアフリーを目指そうと「地域活動所まつり」が開催されました。

地域活動所とは、地域で障害者の自立と社会参加を進めるため、工芸品の製造や農作業、ボランティア活動など様々な活動を行っているところです。

会場には、地域活動所の「きらり（厳原町中村）」、「さわやか（上原町佐須奈）」や、精神保健福祉ボランティアグループの「フレンド（厳原町）」と「やまびこ（上原町）」をはじめ、家族会「ひまわり会」の皆さんのバザーや、餅つき大会が行われたほか、綿菓子やヘルスメイト（食改）のぜんざいなどが販売され、大勢の方で賑わいました。



また、午後1時から、北海道医療大学助教授の向谷地生良先生と障害者自身の自立、自活を目指して、活動をしている「浦河べてるの家」（北海道浦河町）当事者代表の伊藤知之さんと川端俊さんによる特別講演会「べてるの家の歩みから」も行われました。

講演は、ビデオやスライドを使いながら、地域とのつながりや活動内容を紹介し、自活への取り組み状況については、向谷地先生がコーディネーターになり、伊藤さん、川端さんが先生の問いかけに答えていくというもので、障害



者自身の講演は、その体験に裏付けられたもので、私たちが持っていた精神障害者に対する誤解や偏見を取り払ってくれるものでした。

対馬保健所では、「浦河べてるの家」のように、精神障害者の方のを知り、共に助け合う、心のバリアフリーを目指すため、17年度も「精神保健福祉ボランティア講座」を開講する予定です。内容については、対馬保健所までお問合せください。

【問合せ先】
対馬保健所 地域保健課
52 0166



婦人防火クラブに 消防ポンプ

このほど、美津島町婦人防火クラブ（江嶋慶子会長・会員33名）が、（財）日本消防協会の平成16年度助成事業「女性消防隊による安全で災害に強い地域づくり推進事業」の助成を受けて、軽可搬消防ポンプ及び活動服等一式を購入しました。

当クラブは、今年の11月に横浜市で行われる、女性消防隊全国操法大会に長崎県代表として参加することが決定しており、地区における火災予防の普及、防火意識の向上などに活躍が期待されています。

